

日本医療機能評価機構

2014

7

月号

NEWS LETTER

特集

診療ガイドラインの作成支援と臨床医療 における活用評価

病院をたずねて
活動報告

Topics & Information



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

診療ガイドラインの作成支援と臨床医療における活用評価

EBM医療情報部 部長
吉田 雅博

はじめに

常々医療情報サービス (Minds) 事業にご支援、ご指導を賜りましてありがとうございます。本事業は厚生省の科学研究費によって2002年から事業を開始し、2004年から日本で作成された診療ガイドラインを一般公開してきました。2011年度からは厚生労働省委託事業として事業を展開し、現在 (2014年6月3日時点)、医療提供者向け診療ガイドライン162件 (うち、本文の閲覧が可能なもの128件) を公開しています (図1)。

本稿では、事業全体の流れに加えて、特に本年より力を入れている診療ガイドライン作成支援、活用評価についてご報告いたします。



図1 Mindsホームページ (<http://minds.jcqh.or.jp/n/>)

医療者向け診療ガイドラインを中心として、患者・市民向け情報など豊富な医療情報が満載です。ぜひ、ご活用ください。

1. Minds事業のロードマップ

本事業は、質が高く信頼できる診療ガイドラインの作成支援を行うと同時に、作成された診療ガイドラインの臨床医療での普及と活用促進を通じて、患者と医療者による意思決定を支援し、その結果として診療の質が向上することを目標としています。具体的には、図2に示すような4つのステップで事業を進めています。また、詳細なロードマップは表1の通りです。



図2 診療ガイドラインによって診療の質の向上を実現する4ステップ
(日本医療機能評価機構 山口直人特命理事作成)

表1 5年間の委託事業のロードマップ(◎は重点項目を示す)
(日本医療機能評価機構 山口直人特命理事作成)

年度	①作成支援	②評価選定・普及	③活用促進	④評価
2011年度	CPG作成方法の海外動向調査	◎CPGの網羅的検索と評価選定	活用促進法の海外動向調査	QIによる評価法の海外動向調査
2012年度	◎新しいCPG作成方法の開発	評価選定の継続	活用促進法の海外動向調査	QIによる評価法の海外動向調査
2013年度	◎新しい作成方法の提案 ◎GUIDE開発	評価選定の継続	活用促進法の検討	評価法の海外動向調査
2014年度	マニュアル充実 eラーニング GUIDE運用	評価選定の継続	◎携帯端末用提供システム開発 ◎CPG活用状況の実態調査	◎QIによるCPG活用状況の評価
2015年度	マニュアル充実 eラーニング GUIDE運用	評価選定の継続	◎効果的な活用法の検討と普及 ◎CPG活用ツールの開発	◎QIによるCPG活用状況の評価 ◎CPGによるQI開発法の提案

CPG：診療ガイドライン GUIDE：ガイドライン作成支援システム

2. 診療ガイドライン作成支援

2013年度から「臨床で役立つ信頼性の高い診療ガイドライン」の作成方法を提案（表2、図3）し、下記各種ツール提供、ワークショップ開催等をして、学会等のガイドライン作成グループが実施する診療ガイドライン作成を支援しています。

表2 診療ガイドライン作成に対する各種支援

詳細な内容は、Mindsホームページで、ご覧いただけます。ぜひ、ご活用ください。

- 講習会
ガイドライン作成ワークショップの定期開催（年4回）
- ガイドライン評価ツール
ガイドライン評価ツールAGREEⅡ日本語訳の公開
- ガイドライン作成支援ツール
Minds診療ガイドライン作成マニュアルの公開
ガイドライン作成支援システム（GUIDE）の公開
Minds診療ガイドライン作成の手引き2014の公開

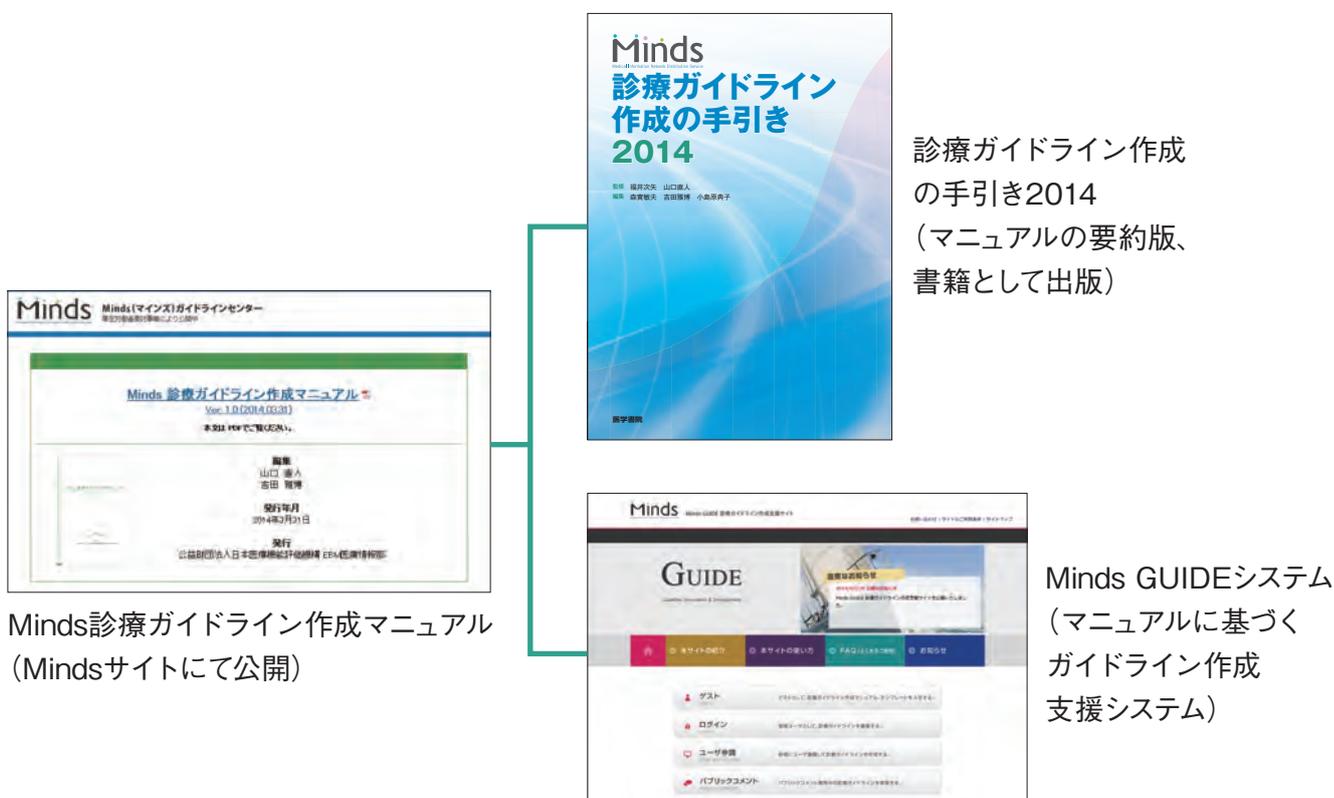


図3 診療ガイドライン作成支援ツールの関係
（日本医療機能評価機構 佐藤康仁客員研究員作成）

3. 診療ガイドライン活用評価

診療ガイドラインの普及と活用促進の効果を診療の質指標（Quality Indicator: QI）によって評価いたします。また、我が国の診療ガイドラインに基づくQIを開発します。

具体的には、京都大学に事務局があるQIPプロジェクトと連携し、DPC調査データや診療ガイドライン関連データ等の収集・解析により、病院における診療ガイドラインの認識、診療ガイドラインの活用状況、診療ガイドラインに沿った診療の実施状況等を調査し、診療ガイドライン活用促進方法を開発します（図4）。

表3 診療の質指標（QI）を用いた活用評価の流れ

2011～2013年度	QIによる診療の質評価に関する海外の研究成果と動向の精査
2014～2015年度	QIによる医療機関別の診療ガイドライン活用状況の把握 診療ガイドライン活用状況との関連性の分析
2015年度～	診療ガイドラインに基づくQI作成方法等をガイドライン作成グループに提案

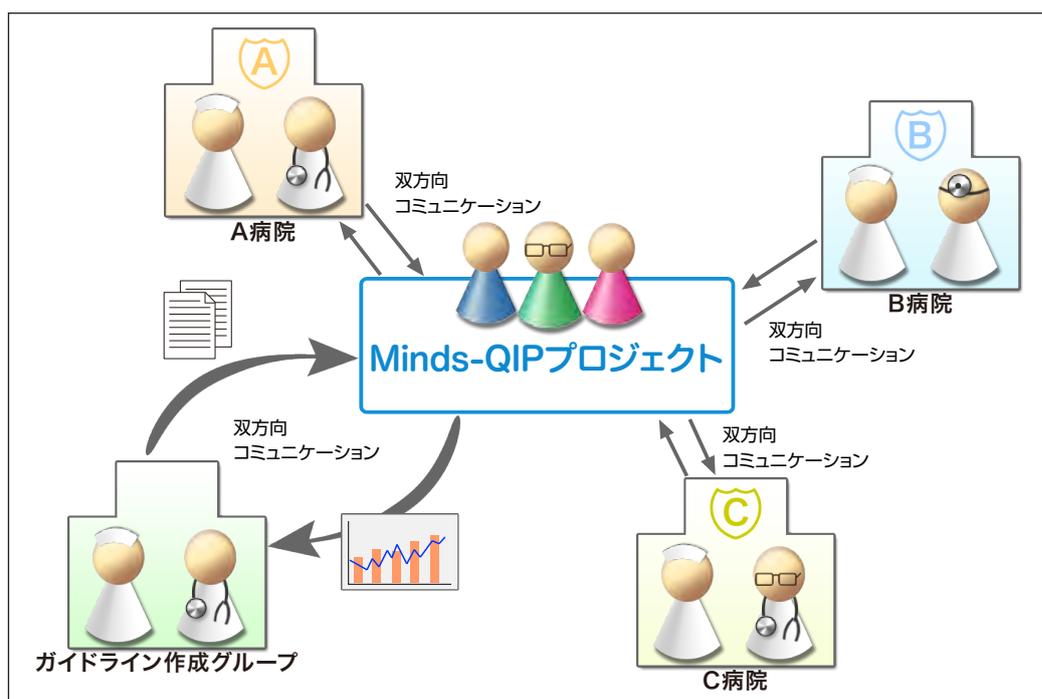


図4 Minds-QIPプロジェクトイメージ

おわりに

質が高く信頼できる診療ガイドラインの作成への支援はEBM普及推進事業にとって極めて重要ですが、作成された診療ガイドラインが臨床診療の現場で十分に活用され、その結果として診療の質が向上することを本事業の最終目標と考えております。

今後もMinds事業、EBM医療情報部へのご支援をお願いいたします。

今月号より毎回、医療の質向上のためにユニークで先進的な取り組みをしている病院を紹介してまいります。

「するプロ」で業務改善

医療法人社団東光会 戸田中央総合病院

「Gメン→2013」が昨年度に引き続き最優秀賞を受賞。テーマは「ゴミの分別」。

今年3月に行われた2013年度の「するプロ」院内発表会の結果です。「するプロ」とは「病院をよくするプロジェクト」の略称。「病院の基本である『質保証』『質向上』について、現場レベルから見直しを行うこと」を目的としています。

「するプロ」の歴史は1999年、現在の中村毅理事長が、院長に就任された時までさかのぼります。中村院長は当時の病院目標を改め、その際に掲げたものの1つが「職員のやる気とアイデアを大切に」でした。その後、2000年に顧客満足向上計画を開始するなか、ボトムアップ方式の取り組みとして、01年度より「するプロ」をスタートさせました。

10年度までは、単独部署の職員で参加するケースが多かったのですが、11年度頃より複数の部署の職員がチームを作って参加するようになりました。医療の質向上のために業務の効率化を図り、改善に向けた討論を重ねていくうちに、しだいに1つの部署だけでは解決できない問題が挙がってくることになり、各部署が協力して取り組む体制ができてきました。

冒頭に挙げたチーム「Gメン→2013」も、看護部をはじめ医局、コメディカル、事務部門等10部署から職員が参加し、感染性廃棄物をはじめとする医療廃棄物の適正な廃棄を進めてきました。結果として感染性廃棄物が減少し、入院患者1人当たりの医療廃棄物処理料金の削減につながりました。

「するプロ」の活動は、約1年にわたって行われます。毎年4～5月にワークアウト研修が実施



され、6月頃に「するプロ推進委員会」が統一したテーマを発表します。それに基づいて、6月末頃までに各チームからテーマが出され、活動が開始されます。10～11月に中間発表会が行われ、ここでは委員会から適宜アドバイスを得ることができます。そして翌年2～3月に最終発表会が行われ、ここで選考委員により最優秀賞以下、各賞が決められます。

原田容治院長は、「するプロ」が優れている点として、「すべてボトムアップの行動であり、いくつかの職種がチームで活動すること」を挙げています。また、院内での発表演題のうち優れた数題の演者には毎年、全国規模の学会で発表する機会が与えられます。

このように着実に成長を続けてきた「するプロ」ですが、推進委員長である畑山麻酔科・ICU部長は、「ここまでレベルが上がってしまうと、逆にもっと身近な問題が見過ごされてしまうおそれもある」との懸念を抱いています。「職員がストレスなく健康に働ける職場を作っていくことも『するプロ』に大いに組み込んでいきたい」（同部長）と今後のさらなる発展に意欲をみせています。（企画部 林 秀行）

医療法人社団東光会 戸田中央総合病院

埼玉県戸田市本町。許可病床数一般462床。1998年9月認定第GB0061号（一般B）、2004年6月認定第GB0061-02号（一般200床以上500床未満）、08年12月認定第GE61-3号（同）、13年10月認定第GB61-4号（一般病院2（200床以上500床未満）（主たる機能））。

活動報告

医療の質・経営向上支援事業

医療の質・経営向上に向けた支援を実施中

昨年4月に当事業を開始して以降、全国の病院から問い合わせをいただき、すでに具体的な案件が進行中です。

スタートアップ業務では、当機構のアドバイザー（診療、マネジメント、財務各領域の専門家）が、病院から提出いただいた資料の調査・分析や現地調査を通じて課題を抽出、病院の担当チームと協働して改善へ向けた提案を行います。

引き続きフォローアップ業務では、当機構のアドミニストレーター（マネジメント支援の専門家）が、定期的に病院を訪問し、上記提案に基づいて経営改善に向けた支援を行います。

ある病院では、病院全体が目指すべき姿について、各医師、事務職等にさまざまな意見があり、ビジョンが定まらないという課題が見出されました。このためフォローアップ業務では、幹部職員全員を集めた検討会議の実施計画を、病院の担当チームと協力して進めています。その他、目標設定・実績管理の強化、クリニカルパス適用率の向上、医師の人事評価の改善等もサポートしています。

相談会（1回目）は無料ですので、是非お問い合わせください。詳細はウェブサイト（下記URL）をご覧ください。

URL:<http://shitsu-keiei.jcqh.or.jp/index.html>



スタートアップ業務における現地調査の風景

フェイスブック

フェイスブックを開設

当機構では、本年2月にフェイスブックページを公開しました (<https://www.facebook.com/jcqh/>)。各部の最新情報やイベントのご案内などを随時掲載しています。

また、EBM医療情報部、医療事故情報収集等事業、薬局ヒヤリ・ハット情報収集・分析事業、認定病院患者安全推進事業では、個別のフェイスブックページでも情報をお伝えしています。あわせてご活用ください。



医療事故情報収集等事業

医療安全情報（5月15日・6月16日情報提供分）

No.90「はさみによるカテーテル・チューブの誤った切断」

No.91「2006年から2012年に提供した医療安全情報」

医療安全情報 No.90 2014年5月

「はさみによるカテーテル・チューブの誤った切断」

医療材料や医療機器をはさみで切ろうとした際に、誤って別のカテーテル・チューブを切断した事例が報告されています。

医療材料	報告件数
カテーテル	2
チューブ	1
その他	1

No.90（1ページ目）

医療安全情報 No.91 2014年6月

2006年から2012年に提供した医療安全情報

2013年にも類似事例が発生しています

事例	件数
No.2 前シリンジのトリートメントの過剰投与による患者の死亡	2件
No.3 グルタミン酸投与による患者の死亡	1件

No.91（1ページ目）

詳しくはWEBで <http://www.med-safe.jp/>

Topics & Information

各イベントの申込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2ヶ月前よりお申し込みの受付を開始します。

<http://www.jcqhc.or.jp/> 日本医療機能評価機構▶ホーム▶イベント情報

7月

■第2回 医療の質・安全に関する オンラインセミナー (Webinar)

国際医療の質学会(International Society for Quality in Health Care:ISQua)の教育プログラムの一環として、当機構より、医療の質・安全に関する日本語セミナーをライブ配信します。

[日 時] 7月22日(火) 20:00～(約1時間)
[テーマ] 医療事故情報収集等事業の現況について

[演 者] 当機構理事 後 信

[対 象] 医療者・病院関係者

[形 式] 45分講義+15分質疑応答
インターネット環境が必要です。
質問はチャット形式で受け付けます。

[参加費] 無料

[申込方法] 事前登録制
当機構ホームページ「イベント情報」欄よりお申し込みください。

[備 考] お申し込み画面は日英併記となりますが、入力は日本語で結構です。

[今後の開催予定]

・10月21日(火) 20:00～
診療ガイドラインの活用状況(仮)
当機構理事 山口 直人

・2月10日(火) 21:00～
産科医療補償制度による質向上について(仮)
当機構理事 後 信

[問合せ] 企画部(03-5217-2335)

※ISQuaは、世界の医療の質向上を目的とする国際学会です。アイルランドに本部があり、約50カ国の組織会員、個人会員とアイルランド政府から資金を得て事業を実施しています。

11月

■平成26年度 クオリティ マネジャー養成セミナー

当機構では、病院の自律的かつ継続的な医療の質改善活動を支援するために、病院内で中心となる医療の質管理実務責任者を対象にクオリティ マネジャー養成セミナーを行います。

[日 程]
第3回 11月28日(金)・29日(土)
1月22日(木)・23日(金)

※4日間のプログラムになっております。

[会 場] 当機構 9階ホール

または 東京都内研修施設

[対 象] 病院における医療の質管理の実務責任者、またはそれに準ずる方
(またはそれを目指す方)

[定 員] 各回 65名
定員になり次第締め切ります。

[参加費] 認定病院等 1名 120,000円
上記以外の病院 1名 180,000円

[申込方法] 申し込み受付中
当機構ホームページ「イベント情報」欄よりお申し込みください。

[問合せ] 評価事業推進部(03-5217-2326)

編集後記

今月号より、新しく「病院をたずねて」を連載します。全国各地の病院を訪ねてご紹介してまいりますので、どうぞご期待ください。

NEWS LETTERは当機構ウェブサイトでも閲覧できます。あわせてご利用ください。

日本医療機能評価機構

NEWS LETTER 2014年7月1日発行
(奇数月1日発行)

発行責任者：井原 哲夫

発行元：公益財団法人日本医療機能評価機構

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル

TEL：03-5217-2320(代) / (編集：企画部) 03-5217-2335

<http://www.jcqhc.or.jp/> / e-mail:order_news@jqhc.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます